

新型コロナウイルス感染症 の感染拡大を防止する為に



高齢者施設でクラスター化させないためには・・・

1. ウイルスを持ち込まない対策

2. 施設内で感染を拡大させない対策

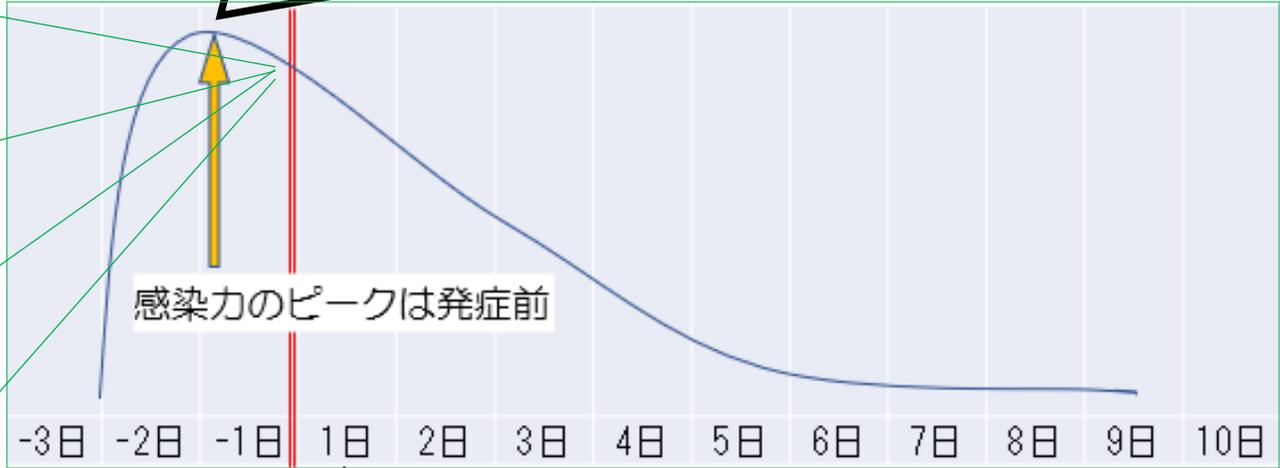
平常時から方策することが大切です



新型コロナウイルスの感染力

症状が出る2日前から感染力がある

- 喉の違和感、痛み
- 体のだるさ
- 咳、鼻水
- 微熱



陽性者が無症状なことから気が付かないうちに周囲に感染させている

■ 高齢者施設職員が新型コロナウイルスに感染し、施設で集団感染となってしまったケースが多くあります



- ☑ 症状があれば仕事を休む
- ☑ 症状がある場合や家庭内で有症状者がいる場合、申告しやすい風土をつくる
- ☑ 入居者が離設し再入所する場合や新規入所者の体調変化に注意する

- 報告があった場合の初期対応で大切なのは接触者の把握です。
感染していた場合次々に感染拡大する可能性があります
- 陽性者や濃厚接触者は勿論、感染しているかもしれない接触者の存在を想定した対応が必要です



新型コロナウイルス 感染経路/高齢者施設におけるリスク要因

接触感染

皮膚や粘膜の直接的な接触、
または間接的に触れ、その後眼、鼻、口
を触ることで感染

- 不適切な个人防护具の着脱
- 不適切なゾーニングと
動線設定
- 間違った消毒
- 手指消毒が不十分



飛沫感染

会話・咳やくしゃみなどの際に飛散
するウイルスを含んだ体液の粒子が、
眼、のど、鼻の粘膜に付いて感染

- 不適切なPPEの選択



空気感染

飛沫の水分が蒸発して軽い微粒子と
なり、呼吸により粒子を吸い込むことで
感染

- 換気不足
- 不適切なゾーニング
と動線設定



- ①個人防護具（正しい選択と着脱）
- ②消毒液（正しい溶液とタイミング）
- ③ゾーニングと動線確保（正しい理解）

正しく実践できていれば、感染経路を断ちクラスター化は予防できます
詳細については各論をご参照ください。

